

【 見方や考え方 B：授業をつくる教師の視点】

美術の生き残り作戦

今日は 53 分授業、明日は 60 分授業だ !

これが現実なら、各学年とも年間の授業時数が多少多く確保できるかも？

中学校の美術の時間は年間、1 年生が 45 時間、2・3 年生は 35 時間と、限られた時間である。1 時間の制作の時間は、準備・片付けを除くと、およそ 30～35 分である。特に 2・3 年生は週に 1 回のみ。イメージを持続するにはかなり厳しい状況である。しかし、この状況の中で進めなくてはならない。

本校の秘密兵器は、美術の時間を 1 時間目または 5 時間目に位置づけていることである。朝の会の終了 10 分後に 1 校時が始まり、昼休み終了 25 分後に 5 校時目が始まる。このわずかな時間が美術の生き残り作戦である。

当然、教師側の授業の準備は前もってしておき、後は教科系の腕の見せ所。教科係に続き、他の生徒も椅子降ろしやファイルの配布、スケッチブックの準備などを猛スピードで手伝う。教科系の忘れ物調べや欠席者の記録、終了後の整頓係の確認など、手際よく進む。さらに、必要な用具や水などの準備も、来た生徒から始めている。授業開始の挨拶。その後で開始のチャイムが鳴り響く。

この数年で、このスタイルができてきた。どんな時でもマイペースの生徒はいるが、多くの生徒が前向きに取り組むようになった。前回のプリントを見ながらワンポイントアドバイス。「今日の課題はこれ」。ひと回りすると、残りわずかな時間。黒板に書かれた時間を見て、区切りのよい生徒から片付けに入る。

授業内容の工夫はもちろんであるが、美術の時間を楽しみにしている生徒がいきいきと活動できる場の設定を常に心がけていきたい。

(泉 ^{いづみ} 重二 ^{しげし} : 千葉県佐倉市立臼井中学校教諭)